

■佐賀駅前広場整備等活用アイデアワークショップ結果の報告

令和元年12月4日(水)に開催した市道三溝線(歩道空間)や駅前広場の活用に関するワークショップについて報告しました。



＜ワークショップで出された主な意見＞

三溝線	<ul style="list-style-type: none"> 歩きたくなるように設えてほしい。 自転車専用レーンと車道の間に縁石がないと安全面が不安 展示や販売などを行う店などがあるとよい。 仮設形式でもよいので、学生が得りに立ち寄れるような店があるとよい。 沿道にスポーツショップや新しくスポーツに触れる店などがあるとよい。
駅前広場	<ul style="list-style-type: none"> イベントスペースは広いほうが良い。電源給排水はあったほうがよい。 清潔感のあるベンチでなければ座らない。 ムクドリなどの糞害があるので、注意が必要。

第3回検討会では、第2回検討会の振り返り、活用アイデアワークショップ結果の報告を行ったあと、整備計画案について、参加者の皆様の意見交換を行いました。

＜第3回検討会＞

- 日時 令和元年12月12日(木) 15:30～17:00
- 場所 三溝公民館
- 参加者 佐賀大学:有馬隆文教授(座長)
地元自治会(神野自治会会長会、三溝、新家、草場区、八丁隈)、九州電力、トヨタレンタリース、元気じるし、佐賀県、佐賀市(事務局)
- 議題
 - 市道三溝線の整備計画(案)について
 - 市道三溝線の活用等について



■整備計画(案)／全線のイメージ

全区間を3つのゾーンに分ける案について、デザインなどを含め、意見交換を行いました。

三溝線全体のゾーニング (以下の3ゾーンに分けて検討します。)

・佐賀駅からつながる「駅前エントランスゾーン」 / 沿道施設と連携した「憩いと賑わいのセンターゾーン」 / 高揚感を高める「アリーナへのゲートゾーン」

A. 「駅前エントランスゾーン」断面図 (A-A')

高揚感を生み出すゲートゾーンに合わせた植栽の配置を検討します。

B. 憩いと賑わいのセンターゾーン断面図 (B-B')

ベンチや植栽の配置により、憩いと賑わいを演出します。

C. アリーナへのゲートゾーン断面図 (C-C')

高揚感を生み出すゲートゾーンに合わせた植栽の配置を検討します。

交差点や道路構成の変化箇所の舗装を変えることで、速度抑制と空間の演出を演出 ※赤丸箇所

植栽
低木植栽や地被植栽の配置を検討します。

交差点舗装を変えることで、速度抑制とアリーナへのゲート性を演出

マルシェエリア
マルシェなどを行いやすいエリアを3か所ほど検討します。 ※赤丸箇所

バナー付き照明
歩道照明にバナーを設けることで、イベント時の高揚感を高めます。

距離標
約100m毎に距離を示すサインを設置し、分かりやすく、歩きたくなる効果的な演出を演出します。

機能照明
夜間の安心安全で歩きやすさのため、一定間隔で歩道照明を設置します。

案内用メッシュ壁面
必要に応じてポスターや情報を掲示できる壁面を設置します。

ベンチ
両側から利用できるベンチを設置し、日常・非日常の歩道活用に活用します。

演出照明
ベンチなどに照明を組み込む等、夜間でも居心地がよい空間を創出します。

■整備計画(案)／各ゾーンの考え方

整備計画(案)について、3つのゾーンごとに考え方を共有して、意見交換を行いました。

A: 駅前エントランスゾーン

駅前からつながる通りのエントランスとして、広々とした歩道空間をもつエリア

舗装	ブロック舗装、カラー舗装など(単色)
高木	一部伐採し、空間を確保
低木地被	フラワーポッドなど(少数配置) 散水栓の設置を検討
照明柱	あり(両側バナー設置)
ベンチ	少数配置
設備	給排水、電源等を検討

歩行者のリズムをつくりだす
ボーダーの舗装(4m間隔)

舗装/タイルはボーダー舗装のみとし広々とした空間とする

照明柱は植栽の並びに配慮し
両側にバナー設置可能とする

B: 憩いと賑わいのセンターゾーン

人々の滞留や活用を促すコアゾーンとしてベンチや植栽による設えをもつエリア

舗装	ブロック舗装、カラー舗装など(混色)
高木	現状の緑量を確保
低木地被	花箱、フラワーポッドなどを比較的多めに配置 散水栓の設置を検討
照明柱	一定の距離を確保した上で、照明柱ではなく、植栽やベンチによる演出を中心とする
ベンチ	比較的多く配置
設備	給排水、電源等を検討

ひと休みできるベンチ

既存樹に低木や地被類を合わせた植栽

中央の緑地帯を活用して賑わいを演出することで、周辺の通りは高規格通りに利用

C: アリーナへのゲートゾーン

アリーナへ向かう高揚感を高める空間としてさまざまな演出を行うエリア

舗装	ブロック舗装、カラー舗装など(混色) ボーダー舗装のピッチを狭くする
高木	現状の緑量を確保
低木地被	フラワーポッドなど(少数配置) 散水栓の設置を検討
照明柱	あり(両側バナー設置)
ベンチ	少数配置
設備	給排水、電源等を検討

ボーダー舗装のピッチを狭め、アリーナへの高揚感を演出(9m間隔)

照明柱は植栽の並びに配慮し
両側にバナーを設置可能にする

■検討会で出された主な意見

①整備計画(案)について

■全体的な考え方について

- ・3つのゾーンに分ける考え方、各々のゾーンの考え方はよい。
- ・現地視察会に参加したが、通りに高揚感が必要だと感じた。イベントの帰りは余韻に浸りたいので、そういう雰囲気のある道になるとよい。
- ・安全性が重要であり、事故が増えてはいけぬ。車や自転車の目線で見てどうなのかも考えてもらいたい。

■設備、植栽等の考え方について

- ・高い木が必要か精査してもらいたい。セブンイレブンの前には不要だと思う。案内板も、少し背が高いと思う。
- ・駅に近い場所は、出発点であり、あまり疲れていないのでベンチはいらないのではないかと。誰もが花は好きだと思うが、管理が大変であるため、誰が管理するか、事前の検討が必要である。
- ・血液センター前の花壇は管理されずに雑草だらけになっているのが印象が悪い。

②歩道空間の活用・管理について

- ・国民スポーツ大会から新しい三溝線の全てが始まると考えている。最初に大きなインパクトを与えないと、まちづくりが動き始めない。沿道の人々が「何かやってみよう」という感じになるためには、スタートが大切である。
- ・三溝線を永続的に活発にしていくには、イベントを単体で行っていくのでは継続性がなくてよくない。マルシェを行うのも、祭りのときの年間2〜3日ではなく、年間を通して行うのか、一定期間を通した活動にしたいといけぬ。
- ・駅前市の玄関口である。ハード(道路のデザイン)とソフト(利活用)がかみあっていないといけぬ。
- ・県や市内の有力企業を巻き込んでもらいたい。地元(自治会)では難しい。きれいな道ができたというだけでなく、こうした企業の巻き込みも合わせてやっていく必要がある。
- ・整備後は歩行者天国等もやってみたい。賑わいをつくりたいという思いを持っている。

③沿道について

- ・900mの新しい道路ができる。脇道にも飲食店があるので、一緒に発展していくとよい。
- ・沿線に仲間が増えるのがいいことであり、個人店が出てくるのはうれしい。自分は夜中心の商売だが、昼間のカフェをやる人が増えるとよい。
- ・人が休める場所の確保を沿道も含めて考えてもらいたい。
- ・道路の検討会だが、意見が沿道に及んでいることから、やはり、ソフト(利活用)の話もやり始めたほうがいいのではないかとはい始めている。任意のまちづくり勉強会から始めて、徐々にまちづくり検討会に発展させていくなどの形が必要ではないかと思う。

第4回検討会では、今回の意見を踏まえて検討した整備案についてご報告します

～第4回検討会を開催します～
日時 2月19日(水) 15時30分から
場所 三溝公民館(予定)
※傍聴は自由です。

【発行・お問い合わせ】
佐賀市役所 佐賀駅周辺整備構想推進室
電話: 0952-40-7009
E-mail: sagaeki@city.saga.lg.jp